

Title	チェーンストア企業における提携・合併の定性的分析
Sub Title	
Author	尾亦恒夫(Omata, Tsuneo) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0132">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0132</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 尾 亦 恒 夫 主査 小 林 規 威 教授  
(株式会社 イトーヨーカドー) 副査 和 田 充 夫 助教授  
所属ゼミナール 和 田 充 夫 研 嶋 口 充 輝 助教授

## チェーンストア企業における提携・合併の定性分析

チェーンストア企業の劣悪な環境下での、本部成長手段、特に、提携・合併戦略の成長を問い直そうというのが、本研究の目的である。本研究では主に、二つの事例研究と、質問票による他の当事企業の調査結果の分析に基づき、当該戦略のあり方等について提言を行う。

### 〈提言と結論〉

〔提携・合併等の意義と必要性〕 ① 出店をめぐる厳しい条件の中で、当該戦略を含め、企業結合によるグループ化を早急に図るべきこと ② それは商品供給量の増大による、適正なバイイング・パワー強化の為にも、また無用な競争を回避する為にも有効な策であること ③ グループ全体の資金調達ルート形成、含み資産形成の為にも優良地域企業の獲得、育成による上場候補企業作りとして有効であること、等を認識すべきである。

〔日常の政策の重要性〕 ① 商品（開発）力を高める努力を一層推進すること。② 自企業の魅力－企業理念、経営者の哲学、商品力－を外部に積極的にアピールすること、等の重要性を再確認すべきである。

〔実施上の留意点〕 ① 地域企業の「のれん」と地域企業たることの意義を認め、社名等の相続使用を原則とすること ② 低利貸付による資金援助を投資活動の一環として位置づけること ③ 提携合併側の企業は、相手企業の能力、優れた点を吸収せんとする謙虚な姿勢が大切であること、等を確認すべきである。

最後に、全般的な結論として、半数以下の株式取得による資本提携でも、商品供給とシステム等の供給を通して、合併と殆んど同様な効果が得られることを確認した。